

下肢切断者と義足に関するデータベースの構築とその解析

中村 隆 (研究所) ・ 前野 崇 (病院) ・ 田中 亮造 (病院)
山崎 伸也 (研究所) ・ 三田 友記 (研究所) ・ 久保 勉 (研究所)
三ツ本 敦子 (研究所) ・ 矢野 綾子 (研究所) ・ 飛松 好子 (研究所)

国立障害者リハビリテーションセンターが保有する切断者に関する二つのデータベースを連結し、医療情報と義肢情報を結合したデータベースを新たに構築した。このデータベースに登録された136名の下肢切断者のデータ解析により、切断者の機能と義足形式、部品等の特徴的な因子の関係が明らかになった。下肢切断者の年齢、切断高位は機能評価尺度のスコアや歩行速度と相関した。このデータベースは切断リハビリテーションの現状把握と分析に有用である。

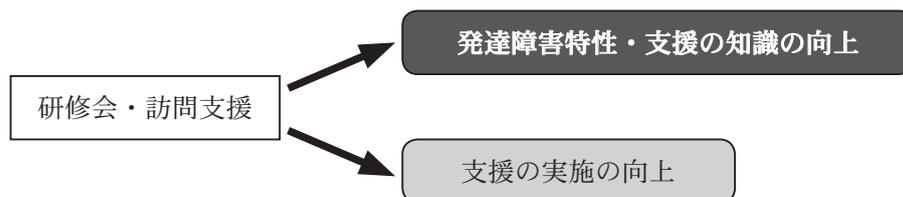


保育所における発達障害に関する研修会・訪問支援の効果

佐山 智洋 (秩父学園) ・ 新妻 里紗 (秩父学園)
楢上 耕祐 (秩父学園) ・ 村上 功二 (秩父学園)
齋藤 信哉 (秩父学園) ・ 永吉 敏広 (秩父学園)
佐藤 千代子 (秋草短大) ・ 緒方 明子 (明学大)



保育所において研修会、訪問支援を実施し、質問紙によりその効果を調査した。結果として研修会・訪問支援により発達障害特性・支援の知識や支援の実施が向上する傾向がみられた。



保育所における発達障害児に関する実態調査



佐山 智洋 (秩父学園) ・ 新妻 里紗 (秩父学園)
 村上 功二 (秩父学園) ・ 齋藤 信哉 (秩父学園)
 永吉 敏広 (秩父学園) ・ 佐藤 千代子 (秋草短大)
 緒方 明子 (明学大)

保育者を対象に質問紙を用いて、発達障害児の在籍状況、保育者の専門性、支援の困難さ、支援の実施の状況などについて調査した。

0歳児	1.96%
1歳児	5.73%
2歳児	10.70%
3歳児	9.87%
4歳児	11.45%
5歳児	9.52%

在籍率の概算

保育専門性	3.31
専門的支援知識	2.24
保護者対応	3.54
職員間連携	3.38
子ども理解	3.63
障害名知識	2.84

専門性についての結果

発達障害の支援	2.88
保育的支援	3.91
個別的支援	3.31

支援の実施についての結果

国立障害者リハビリテーションセンター病院の補装具診療外来を受診した新規切断者の特徴

三ツ本 敦子 (研究所 義肢装具技術研究部) 他 8 名

2005年4月から2015年3月の10年間に国立障害者リハビリテーションセンター病院の補装具診療外来を受診した176人の新規切断者(先天性を除く)の特徴について分析を行った。大切断や多肢切断など障害度が高い切断者が主に当外来を利用していることが明らかとなった。

